



# 広島工大同窓会会報

第29号

発行  
広島工科大学同窓会  
編集同窓会編集委員会  
731-91 広島市佐伯区三宅2丁目-1  
広島工科大学内  
TEL:0829-21-3121 (内線)570

同窓会会長  
道田 憲治

## 魅力ある同窓会

今年になって多くの人達が、過去に遭遇したことの無い阪神大震災、又常識人には考えられない、地下鉄サリン事件、被災地の完全復興、サリン事件の全面解決、まだまだ時間が、かかりそうな今日この頃ですが、同窓生の皆さんにおかれましては、お元気で、それぞれの職場で頑張っておられることと思います。

今年の4月には、同窓会創立30周年を迎えホームカミング形式で母校の鶴記念体育館に於いて開催したところ、

600名余りの会員の方々にご出席して頂き、今までにない、多数の会員と共に、なつかしい、楽しいひとときを持つことが出来ました。私はこの節目の年に同窓会長を拝命致し、永見前会長を始め諸先輩役員の方々が、築き上げられた基盤を、継承しつつさらに充実させていきたいと思っています。

会長方針と致しましては、次の3つをかかげ充実、活性化を図ります。

1. 同窓会組織の充実
2. 支部の活性化
3. 大学との協力体制

この方針に共通することは、全て人のつながり、人というものの大切さ、重要性、他の何ものにも代え難いものであるということです。同窓会とは、本学の建学の精神「教育は愛なり」教育方針「常に神と共に歩み、社会に奉

仕する」を学んだ同窓生が、社会に翔び立ち、それぞれの職場で、社会的評価を高め、本学の崇高な精神を、社会に浸透させていくことが、我々同窓生の役割であり、何ものにも代え難い、人(同窓)のつながりではないでしょうか。

又、魅力ある同窓会にする為には、情報の基盤でなくてはならない。人が集まるところには、情報が集まり、そこには、経済が、生まれる。経済が生まれれば、文化が生まれ、秩序が生まれ、再び人が集まり、活性化していく。

言葉では、魅力ある同窓会にしていく為に、色々述べましたが、即座に出来るものではございません。役員の方々を始め、会員一人一人、大学側の協力もあって少しずつ会員が、幸せになれる。そして魅力ある同窓会にしてゆきたいと思っておりますので、ご協力の程よろしく願います。

広島工業大学同窓会30周年記念講演会



第30回定期総会の報告  
広島工業大学同窓会 幹事長  
村中 昭典

平成7年度の広島工業大学同窓会総会が、平成7年4月22日(土)午後2時から3時、記念講演会が午後3時から午後4時、記念祝賀会が午後4時から午後6時30分まで母校広島工業大学で開催されました。また、本年も昨年と同様に総会の開催に先立ち全国の地域支部、県支部、職場支部などの支部に出席頂いて各支部における活動状況の報告や同窓会に対する意見や活況な情報交換をさせていただきました。総会では本学を卒業した同窓会30周年記念事業に対する会員皆様の御協力に対する御礼の挨拶に始まり出席者の中より、中電工の清水氏が議長に選出され、議長の議事進行で総会では行われました。手越幹事長から平成6年度の活動内容の主なものについて報告がありました。役員改選では本会長に代わり、新しく道田忠生氏(昭和45年経営工学科)が新任に選ばれ、副会長は4名に規約の改正が行われました。本年度の同窓会役員名簿は下表に示すとおりであります。

記念講演会では、広島工業大学 川崎 尚学長より、「広島工業大学の将来と健康管理」と題し、御講演を頂きました。約300名弱の同窓生が聴講され、

広島工業大学の将来構想と自己の健康管理の大事さについて聞かされていました。

次に記念祝賀会では、広島工業大学総合体育館において総勢約600名強の同窓生で開催され、司会者にテレビ新広島の中村康典氏を招き、宴を盛り上げて頂きました。会場では母校の先生方にも多くの出席を頂き、同窓生との昔ながらの楽しい話に花を咲かせていました。また、同窓生の交流の場として特別講演コーナー(学生求人、情報交換、各種相談)を設けられた。短い時間ではありましたが同窓生各々青春時代を思い出し、有意義な時を過ごされたのではないかと感じています。

平成7年度での活動方針につきましては、同窓会支部活動の活性化を図り、活動していくことであります。以下に、定例活動方針を列記しております。

- 1) 会誌・会報の発行、2) 同窓会名簿の発行、3) 同窓会名簿に関するメンテナンス、4) 支部活動の活性化、支部との連携の強化、5) 在学生活動、6) 同窓会業務の拡大との連携、7) 財産管理、その他。また、最後に今後の30周年記念事業にむけて同窓生各位には多大な御協力、御支持を頂き、ここに感謝の意を表します。記念講演会、記念祝賀会、寄付者名簿等の詳細については30周年記念誌にて御報告させていただきます。

広島工業大学同窓会 第30回総会



広島工業大学同窓会  
広島第一支部発足!

支部担当 伊藤 秀敏

広島第一支部は、広島県北部地区の2市・6郡に在籍されている広島工業大学の卒業生の皆様方で構成されております。同支部の発足に際しては、過去の同準備会を行い、各学科卒業生の皆様方と、支部発足前・後に係わる手続き事項や活動方針について、熱心に議論していただきました。広島第一支部発足式は、平成7年7月1日に、三次グランドホテルにおいて挙行されました。式典では、発足式および懇親会が行われ、発足式にて、植田支部長より同支部の発足に至るまでの経緯と親しく役員構成が提案され、満場一致で承認されました。

役員構成は、支部長には相田一雄氏(土木工学科47年卒)、副支部長には浮田哲司氏(機械工学科48年卒)、植田誠氏(土木工学科48年卒) 矢谷秀男氏(経営工学科45年卒)の3名が、幹事、書記、会計、監査の各役員が、また、大学各学科卒業生の19名の皆様方が選出され、承認されました。広島第一支部の発足式ならびに懇親会には、43名の在籍者の皆様方が出席されました。

さて、広島第一支部の発足には、広島工業大学より、川崎尚学長を始め、川畑先生(電子工学科)・猪土先生(電気工学科)・小西先生(機械工学科、支部担当責任者)・岡見先生(経営工学科)など、同窓会より、道田会長を始め、村中幹事長・伊藤支部担当の方々に出席していただきました。懇親会では、川崎尚学先生より、広島工業大学の近況報告と特

米構想ならびに大学と同窓会との係わりについて、話していただきました。この中で、博士課程の新設に関する事項や同窓生のご子の方へ入学への入学に係る事について支部会員の皆様は、特に、強い関心を抱かれておりました。道田会長は、同窓会の活動方針の中でも、「同窓会を活性化するには支部を充実させ、同窓会本部に有機的且つ、密接に情報交換を持つことが肝要である。」と情熱をこめて話されました。

相田支部長は、広島第一支部の活動方針を持前のチャレンジ精神で、「支部会員の皆様方の協力の下に、最も活発な支部である、誰にも認められるよう努力します。」と力強く述べられました。その後、園児先生の乾杯の音頭を皮切りに、祝宴にはいりました。宴たけなわの頃に、別席していただいた先生方より、自己紹介と近況報告がなされ、村中幹事長の音頭により、万歳三唱にて、宴をこじました。

広島第一支部の発足に際し、懇親会を盛大に、且つ、厳粛に盛り上げた相田支部長を始め、支部会員の皆様方ならびに川崎尚学先生・園児先生・川畑先生・猪土先生・小西先生・道田同窓会会長・村中同窓会幹事長の皆様に深謝する次第であります。



広島工業大学同窓会広島第一支部

平成7年度 同窓会役員

氏名	卒業年	学科
相談役 中屋 重男	41	電子
〃 水見 薫吉	42	電子
副会長 道田 忠生	45	経営
会長 植田 好弘	44	機械
〃 荒谷 芳一	47	土木
〃 川畑 健次	44	建築
〃 井手 昭典	43	機械
幹事長 村中 昭典	59	土木
副幹事長 大林 昌	55	〃
〃 手越 義昭	49	建築
会計 宇野 勉	41	電子
〃 加藤 元吉	63	機械
〃 藤井 伸吾	114	経営
会計監査 松本 寛	48	経営
〃 藤上 善治	42	電気
〃 藤原 昌志	60	土木
書記 中畑 正二	H5	経営
〃 中村 繁治	H7	機械
幹事 砂田 謙二	39	電子
〃 村田 忠志	41	〃
〃 川畑 敬志	42	〃
〃 玉野 和保	44	〃
〃 重広 孝則	46	〃
〃 湯尻 義三	39	電気
〃 原田 照山	42	〃
〃 沖根 光夫	44	電子
〃 片山剛之次	42	〃
〃 松江 孝博	43	機械
〃 小西 正明	43	〃
〃 中西 助次	43	〃
〃 森永美治郎	43	〃
〃 小池 利明	52	〃
〃 吉田 和信	55	〃
〃 山田 一彦	55	〃
〃 水塚 健治	61	〃
〃 鈴木 文也	62	電子
〃 松岡 泰弘	63	機械

氏名	卒業年	学科
幹事 伊藤 秀敏	44	土木
〃 菅原 辰彦	45	建築
〃 菅 雄三	50	土木
〃 西田 弘展	45	経営
〃 西野 達夫	49	経営
〃 高瀬 明	49	機械
〃 広原 隆 45	経営	
〃 定宗 貴 45	〃	
〃 中村 邦彦 46	電気	
〃 植村 邦生 56	建築	
評議員 福原 秀 38	電子	
〃 倉本 昭記 38	〃	
〃 倉本 芳男 42	〃	
〃 森山 善雄 42	〃	
〃 大森 忠勝 44	〃	
〃 山田 隆雄 55	〃	
〃 森本 博康 41	電気	
〃 可加 英昭 41	〃	
〃 松原 弘毅 51	〃	
〃 木村 一彦 44	機械	
〃 坂本 幸雄 45	〃	
〃 嵯 勝義 46	〃	
〃 藤川 隆 47	〃	
〃 松村 祐典 51	〃	
〃 立花 千秋 55	〃	
〃 柳生 道夫 46	土木	
〃 三上 明夫 44	建築	
〃 中塚 晴夫 44	〃	
〃 加藤 忠子 45	〃	
〃 下田 卓夫 50	〃	
〃 森山 孝三 52	〃	
〃 森山 正 53	〃	
〃 嵯 孝司 45	経営	
〃 新保 栄一 45	〃	
〃 朝原日出久 49	〃	
〃 岡本 辰記 53	〃	

平成6年度同窓会会計報告

<収決算>	
平成6年度総収入	23,966,255
平成6年度総支出	19,888,388
残高	4,077,867
<収入の部>	
平成5年度繰越金	4,975,977
入会金	3,342,000
終身会費	15,444,000
総会費	
雑収入	71,365
預金利息	132,913
合計	23,966,255

<支出の部>	
印刷製本費	4,579,760
1,383,275	
支部費	364,000
助成費	902,000
通信運搬費	5,616,982
消耗品費	957,469
総費交通費	1,051,280
役員手当	32,000
委託費	1,534,709
保守費	0
福利費	14,295
雑費	0
賃借料	16,100
備品費	0
雑支出	28,428
同窓会基金繰入金	1,000,000
奨学金繰入金	900,000
30周年記念品	1,000,000
助成費剰余金	498,000
子備費	0
合計	19,888,388

<基金の部>	
平成5年度繰越金	122,365,676
本会計より繰入	2,000,000
預金利息	2,488,261
合計	126,853,937

奨学金会計報告

<収決算>	
平成6年度総収入	17,951,135
平成6年度総支出	900,000
残高	17,051,135

<収入の部>	
奨学金基金繰入金	16,255,505
助成費剰余金	900,000
利息	498,000
寄付金	297,630
合計	17,951,135
<支出の部>	
奨学金	900,000
合計	900,000

平成7年度予算

<収入の部>	
平成6年度繰越金	4,077,867
入会金	3,012,000
終身会費	15,930,000
総会費	1,800,000
預金利息	100,000
雑収入	15,000,000
(基金より800万、寄付金700万)	
合計	39,919,857
<支出の部>	
印刷製本費	8,149,000
会合費	5,200,000
支部費	750,000
助成費	1,400,000
通信運搬費	8,978,000
消耗品費	1,200,000
総費交通費	1,660,000
役員手当	32,000
委託費	1,658,000
福利費	100,000
雑費	150,000
賃借料	120,000
備品費	0
雑支出	50,000
同窓会基金繰入金	1,000,000
奨学金基金繰入金	900,000
30周年記念品	6,000,000
子備費	2,572,857
合計	39,919,857



# Message 同窓生通信

## 公開実験と公開シンポジウム

広島工業大学環境学部教授 菅 雄三

(昭和50年土木工学科卒)

### ★公開実験

#### 通信衛星を利用した地球観測衛星データ伝送実験

通信衛星を利用した地球観測衛星データ伝送のための公開実験が平成7年6月14日午前10時から広島工業大学21館にて行われた。

これは、中国電気通信衛星局、広島工業大学、宇宙開発事業団の主催によるもので、図1に示すように、衛星リモートセンシングデータの行情報として活用を調査研究するため、「地球衛星通信ネットワーク」を利用した実験が行われた。

本実験の背景は以下のとおりである。

1972年にNASAがLANDSAT 1号機を打ち上げて以来、人工衛星による地球環境解明のための国際的学術研究が本格的に開始され、わが国では、宇宙開発事業団が地球観測衛星の受信処理の運用を行っており、国内外の衛星データの配布を実施している。これまでは衛星データが利用者に届くまで1乃至2か月間を要しており、刻々と変化する環境現象や即時的な対応が求められる防災分野では実利用の観点から衛星データのリアルタイム性が課題となっていた。

宇宙開発事業団では、今年度より本格的な衛星データの利用を推進するために、これまで約20年間にわたる人工衛星リモートセンシングの研究実績のある5つの自治体(北海道、岩手県、群馬県、広島県、福留県)を選定し、衛星データ利用における全国的な標準化を目的とした自治体パイロットプロジェクトが、下記のように実施されることとなった。

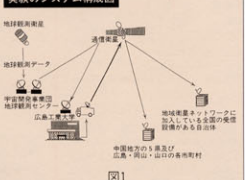
北海道：森林資源管理システム 岩手県：海洋資源管理システム  
群馬県：環境資源管理システム 広島県：防災環境管理システム  
福留県：水資源管理システム

各県の地域特性に応じた特色のある衛星データ利用システムの研究開発が実施される。

広島工業大学の地球環境観測システムに関する学術研究の実績と日本リモートセンシング学会中国・四国支部の中心的活動の背景及び中国・四国地方における防災(土石流、山火事など)と環境(瀬戸内海)に對する衛星リモートセンシングの利用・推進を目的として全国に先駆けて「通信衛星を利用した地球観測衛星データのリアルタイム受信装置」を広島工業大学に設置した。

これにより、宇宙開発事業団で現在運用されている地球観測衛星データがリアルタイムで伝送され、広島

実験のシステム構成図



工業大学の地球観測衛星データ解析システムを利用して、行政に役立つ防災と環境管理に関する衛星利用システム」のパイロットプロジェクトが開始されることになった。

### ★公開シンポジウム

#### 宇宙からみた地球環境

平成7年6月15日午後1時30分から4時30分まで広島国際会議場にて公開シンポジウム「宇宙からみた地球環境」が中国電気通信衛星局、広島県、宇宙開発事業団、広島地球環境情報センター、広島工業大学などの主催により開催され、約1,500人の市民が聴講した。

本シンポジウムでは、まず女性宇宙飛行士の向井千秋氏による基調講演「宇宙からみた地球」が行われた。ここでは、平成6年7月のスペースシャトル「コロンビア号」での宇宙実験を中心にした個人宇宙活動の推進について興味深い宇宙での実体験が紹介され、市民の関心が高かった。

続いてのパネルディスカッションでは、地球環境や自然災害の監視において、人工衛星の活用が期待されている現在、中国地方の環境の現状、阪神大震災時における衛星リモートセンシングデータをもとに、広島工業大学環境学部門田博知教授の司会で関連する専門分野から5名のパネリストにより今後の活用の可能性について以下の内容で討論が行われた。

**松井 房樹氏**  
(郵政省宇宙通信政策課長)  
科学技術政策課政策課長、郵政省通信政策局宇宙通信政策課宇宙通信調査室長などを経て現職。

**瀬野 俊樹氏**  
(広島県企画振興部長)  
建設省大臣官房人事課、国土庁、住宅金融公庫、建設省建設経済局宅地開発課などを経て現職。

**立野 敏氏**  
(宇宙開発事業団理事)  
郵政省を退官後、現職に就任。人工衛星の開発・運用、地球観測システム等の担当理事を務める。

**菅 雄三氏**  
(広島工業大学環境学部教授)  
中国電気通信衛星局研究会会長、宇宙開発事業団地球環境観測委員会委員、日本リモートセンシング学会中国・四国支部長などを務める。

**栗崎 士郎氏**  
(中国新聞社論議委員)  
中国新聞編集局文化・報道部、山口・東京放送社編集、報道部次長、編集委員を経て現職。

宇宙から地球を見る、これを人々の暮らしに利用する。

宇宙開発の成果を出来るだけ多くの方々に享受していただくためにはどうするか、通信の分野が貢献したい。

単行政の高度化、効率化を推進する観点から、今後、人工衛星リモートセンシング技術をどのように活用していくかのような、多くの示唆が得られることを期待している。

地球環境の保全と経済活動の調和が人類共通の重要課題になっています。私どもは、地球村の「持続可能な発展」のための知見の集積に積極的に寄与していきたい。

衛星リモートセンシングは地球規模から地域規模までの環境現象の解明や災害監視に役立つため、情報データベース化やネットワーク化そして人材の養成が急がれる。

宇宙からの「地球情報」を人々の平和な暮らしに役立てるために、科学、行政、産業、メディアを含んで、利用のためのアイデアと技術をどう開発すべきかが今後の検討課題である。

### シンポジウム

#### 宇宙からみた地球環境

—地域の学を知る—

地球環境問題の深刻化に伴って、人工衛星の活用が研究開発に不可欠。中国電気通信衛星局、広島県、宇宙開発事業団の共同主催によるシンポジウムが広島国際会議場で開催された。



- 6月15日(木) 午後1時30分～4時30分
- 広島国際会議場
- 「フェニクスホール」(広島県立広島文化センター)
- 向井千秋氏(宇宙飛行士)

【パネリスト(左から右)】



主催：中国電気通信衛星局、広島県、宇宙開発事業団、広島地球環境情報センター、広島工業大学  
パネリスト(左から右)：松井房樹氏(郵政省宇宙通信政策課長)、瀬野俊樹氏(広島県企画振興部長)、立野敏氏(宇宙開発事業団理事)、菅雄三氏(広島工業大学環境学部教授)、栗崎士郎氏(中国新聞社論議委員)



## 近況報告PART I

## 広島と福岡

現在、私は、広島に本社があるL&T環境設計事務所というところにいます。大学卒業後、建築学校の助手をしていたとき庭園学を教えたこと、山本先生(当時L&T社長、現在広島県議会議員)との縁があってL&Tに入社することになりました。L&Tの仕事は、公園緑地の計画、設計が主力でその他に、都市計画、建築設計等幅広い仕事をしています。そのために、造園、土木、建築の専門技術が必要になり技術(建設部門)、一般の造園と土木の施工管理技術士として一般建築士の資格を取りました。それぞれ資格を取ることで、勉強になりました。

私の今までの担当した主な仕事は、'94年のアジア大会L&T会場である広島広島公園、原爆ドーム周辺整備、県立みよひ公園等があります。

今、私は九州の博多にいます。'95年の5月まで卒業以来ずっと広島でしたが6月1日から九州に行きなさいといわれて、ここきて約1ヶ月半になります。我が社の仕事は、ほとんどが県や市などの官公庁の発注であり広島工大の卒業生を多く九州を歩きまわっています。知らないところに来ていますが、工大の卒業生は、全国どこまで各業界で活躍されているので、ものはいくらでもです。

私が卒業した工大の建築学科がなくなっただけで現在は、新たに環境デザイン学科が

できています。卒業した学科がなくなったことは、寂しいのですが、私が卒業以来ずっとやっていたことが環境デザインだったと思います。今、私は仕事から都市環境や街づくりに興味があるのを、街を歩くとき道の舗装材料、色彩、高木、低木の街路樹それぞれに隣接する小公園のデザインが気になります。今日も、広島と福岡の街づくりに比較してみたいところですが、これから夏になり夏にますます卒業生が地元元気で活躍して下さい。

## 上之博文

(昭和50年建築学科卒業)

株式会社環境設計事務所

常務取締役・九州事務局長



工大すびすびと

水道局の工大の先輩、岡本(廣丁)世紀さんに、同窓会の会報に、得方力がないかと頼まれているけれど、仕事が大忙し、書けそうもないので、代打者頼むと、急に急がれる。軽い気持ちで了解したのはいいのですが、お言葉に聞きかたし、得方力がないか書けることを希望されている。卒業のころから、現在に至るまで思うままに書きたいと思っています。

経営工学専攻、昭和55年に卒業し、早いもので、もう15年も経ってしまいました。学生時代のことが昨日のことのように思い出されます。

私は、大学を卒業後、広島市水道局に事務職で採用されましたが、就職活動時の危機感、いま思い出してもそぞろと紹介する。

広島の水道を簡単に紹介すると、明治31年(1898年)5月6日の近代水道として創設され、その後市制の発願に伴い拡張し、その間、世界最速の原形維持で連続的な打撃を受けた際にも、一度も断水することなくこれを克服し、現在、総人口約110万人を誇り発展を続けています。

水道局は、地方公営企業と言いますが、限りなく民間企業に近い形態を採っています。強制的な寄付、水の製法です。このなかで、私の直接の仕事は、経理課で、出納事務、資金運用及び貯蓄(借入金)を担当しています。そのほか、財務課の仕事

成、原価計算、経営分析等、わたしが、卒業で研究したことがそのまま仕事になっていました。しかしながら、担当の責任負っているのは、申し訳ないですが、真実に勉強していませんでした。ツツガマワリ、昔の教科書を出しては勉強をしています。

現在、水道局の職員数は、682名で、このうち64名が、工大の卒業生です。最近、公営職員の人気が高いようで、倍々高く就職になっているようですが、倍々入ってきてはくれており、高卒生の方が増えることは、心強い気がします。

最後に、同窓生の皆様のご活躍をお祈りいたします。

## 塚本雄三

(昭和55年建築工学科卒業)

広島市水道局



## 広島工業大学からのお知らせ

## 平成8年度の入学試験

昨年度大学入試改革の一環として、推薦入試試験のあり方について調査が実行されています。田校において平成8年度より推薦入試を大幅に改善・変更し、次のような要領で実施することになりました。

1. 主な変更点
  - ①指定校推薦入試の募集枠の拡大  
平成7年度は17.5%であった指定校推薦入試の募集枠を27%に拡大しました。
  - ②公募制推薦入試の変更
    - 選考方法の変更  
公募制推薦入試においては学力試験を全廃し、第一次の書類選考と第二次の面接(口頭試問を含む)によって選抜します。
    - 出願資格の変更  
平成8年3月高等学校卒業見込み者  
イ、評定平均値の平均が3.5以上  
ウ、本学を専願し、成績、人物に優れ、次のいずれかに該当する者で、高等学校長から推薦された者
      - 課外活動・社会的活動に積極的に参加し、顕著な成績をあげた者
      - 技術・技能で高度な資格や水準を有する者
    - 募集人員の変更  
平成7年度は20%であった公募制推薦入試の募集枠を3%に減少しました。

## 2. 入学試験の種類・日程

## ①特別選抜入試試験

種 類	出 願 期 間	試 験 日	合格発表日
公募制推薦入試	平成7年 11月1日(日) 5	1次選考は 1次簿記 簿記のみ 2次選考 平成7年 11月26日(日)	1次選考結果 平成7年 11月15日(日) 最終合格発表 平成7年 12月7日(日)
	11月9日(日) 5	平成7年 11月26日(日)	
指定校推薦入試 特別選抜入試	平成7年 11月6日(日) 11月15日(日)	平成7年 11月26日(日)	平成7年 12月7日(日)

## ②一般選抜入試試験

種 類	出 願 期 間	試 験 日	合格発表日
一般入試試験(前期)	平成8年 1月16日(日) 5	平成8年 2月3日(日) 2月4日(日)	平成8年 2月15日(日)
入試センター試験(前期)	1月25日(日)	個別試験なし	
一般入試試験(後期)	平成8年 2月19日(日) 5	平成8年 3月7日(日)	平成8年 3月13日(日)
入試センター試験(後期)	2月29日(日)	個別試験なし	

## 3. 試験会場

指定校推薦入試試験、社会人特別選抜入試試験、留年女子特別選抜入試試験、一般入試試験(後期)は、広島会場のみです。入試センター入試試験は、本学独自の試験は実施しません。一般入試試験(前期)では、広島、名古屋、大阪、姫路、岡山、高松、松山、松江、徳山、福岡、大分、長崎、鹿児島13会場で受験できます。

## 広島工業大学の入試に関するお問い合わせ

広島工業大学入試事務室(0829-21-3121)へどうぞ。大学院についてのご案内もいたしております。

## 編集後記

平成7年も早、8カ月が過ぎようとしています。今年は早稲早、阪神大震災、地下鉄サリン事件と驚愕の災難にみまわれ日本列島がゆれ動きました。

しかしながら、去る4月22日広島工業大学運動会体育館において広島工業大学同窓会30周年記念祝賀会が無事行われました。600名近い同窓生が集まり、学生時代の思い出に花を咲かせていました。

会報・会誌に関する御意見、御感想をFAXにて同窓会までお寄せ下さい。最後になりましたが、原稿を執筆して頂きました皆様に御礼申し上げます。(同窓会報編集委員一同)

## 同窓会地域支部総会予定地の情報

- 山口周南支部  
10月21日(日) 徳山市内に開催予定
- 長崎県支部  
10月中旬 諫早市内に開催予定
- 愛媛県支部  
10月21日(日) 17:00~  
松山全日空ホテルに開催予定
- 岡山支部  
10月28日(日)  
ホテルニューオカヤマに開催予定
- 福岡支部  
10月21日(日)  
福岡国際ホテルに開催予定
- 鳥取支部  
11月上旬に開催予定

## 平成7年版同窓会会員簿頒布予約

- 頒布価格 1冊3,000円(送料込み)
- 発行予定 平成8年3月末
- 申込方法 会員番号(学生番号)、卒業年、学科、氏名、送付先を明記のうえ、同窓会事務局へFAX又はFAXにて申し込み下さい。
- 申込方法 後日連絡いたします。
- 同窓会正会員以外の方は頒布いたしません。

〈連絡先〉広島工業大学同窓会事務局  
〒731-51 広島市佐伯区三宅2-1-1  
TEL (0829)21-3121 (FAX) 077-7  
FAX (0829)22-1925